

[成果情報名] バラ、ガーベラは切り花収穫後の保管・輸送時の温度管理が花持ちに影響する

[要 約] バラ、ガーベラでは、品種により切り花収穫後の積算温度（以下、温度・時間値（切り花の品質保持期間は、温度と時間の積で簡易に推定できるとする概念））がほぼ一定であり、切り花収穫後の保管・輸送時の温度管理が、観賞時の花持ちに影響する。

[キーワード] バラ、ガーベラ、温度・時間値、日持ち

[担 当] 静岡農林技研・花き生産技術科

[連絡先] 0538-36-1555、agrikaki@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 関東東海北陸農業・花き

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

消費者は花持ちが長い花を求めており、近年、切り花販売店では、切り花の日持ちを保障して販売する日持ち保証販売が普及し始めている。そこで、本県で全国有数の生産を誇るバラ、ガーベラにおいて、切り花の品質保持期間を簡易に推定する方法である温度・時間値の概念が当てはまるかを明らかとする。

[成果の内容・特徴]

- 1 バラ‘サムライ08’で、STS前処理を行い、湿式模擬輸送をした場合の切り花後から観賞期間終了までの温度・時間値は、輸送温度によらずほぼ一定の値である(図1)。
- 2 バラ‘サムライ08’、‘アバランチェ+’で、STS前処理を行い、乾式輸送をした場合の切り花後から観賞期間終了までの温度・時間値は、各品種間でほぼ一定の値である(図2)。
- 3 ガーベラ‘キムシー’、‘サンディ’で、湿式輸送した場合の切り花後から観賞期間終了までの温度・時間値は、各品種間でほぼ一定の値である(図3)。
- 4 ガーベラ‘キムシー’、‘サンディ’で、乾式輸送した場合の切り花後から観賞期間終了までの温度・時間値は、各品種間でほぼ一定の値である(図4)。
- 5 これらから、バラ、ガーベラでは湿式、乾式の輸送形式によらず、温度・時間値の概念が当てはまると推察される。

[成果の活用面・留意点]

- 1 気温23℃、相対湿度70%、12時間日長条件下での試験結果である。
- 2 本試験は、切り花収穫後の保管・輸送時温度が5～25℃、湿式では4日間、乾式では2日間での試験結果である。
- 3 温度・時間値は、品種や収穫時期により異なるので留意する。

[具体的データ]

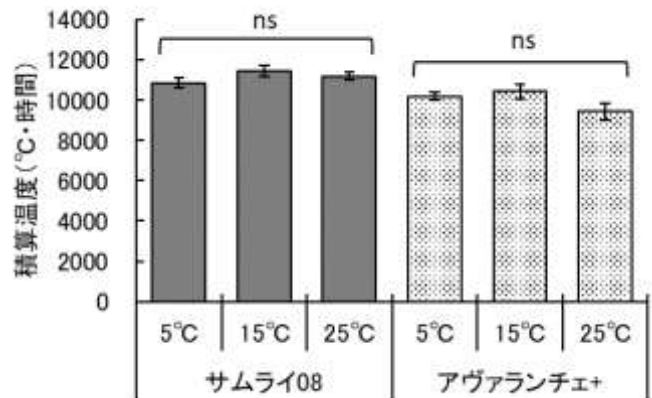
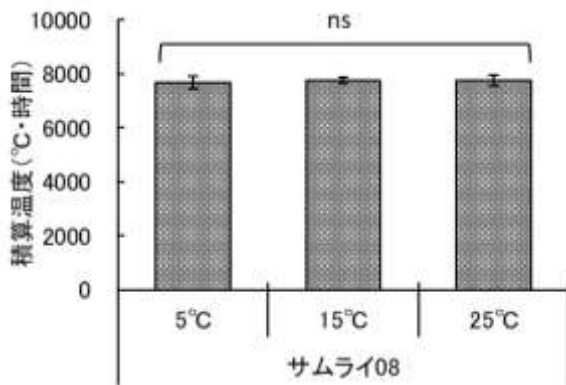


図1 パラ‘サムライ08’へのSTS前処理と湿式での保管温度が収穫後からの積算温度に及ぼす影響^{1),2)}

試験開始:2018年5月28日、STS前処理(1,000倍、5°C2日間)、保管日数は4日間

- 1) nsは有意差なし
- 2) エラーバーは標準誤差を示す(n=10)

図2 パラ‘サムライ08’‘アバランチェ+’へのSTS前処理と乾式での保管温度が収穫後からの積算温度に及ぼす影響^{1),2)}

試験開始:2020年8月3日、STS前処理(1,000倍、5°C2日間)、保管日数は2日間

- 1) nsは有意差なし
- 2) エラーバーは標準誤差を示す(n=10)

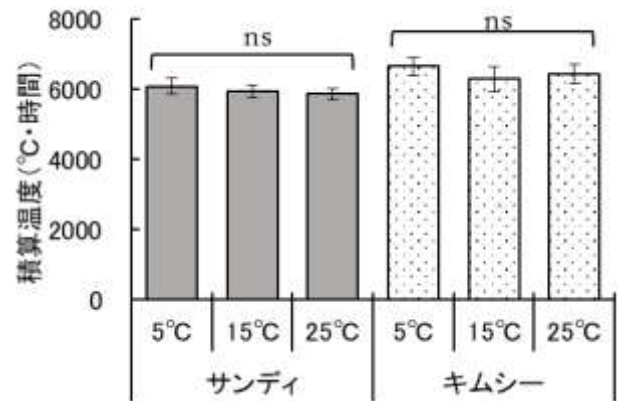
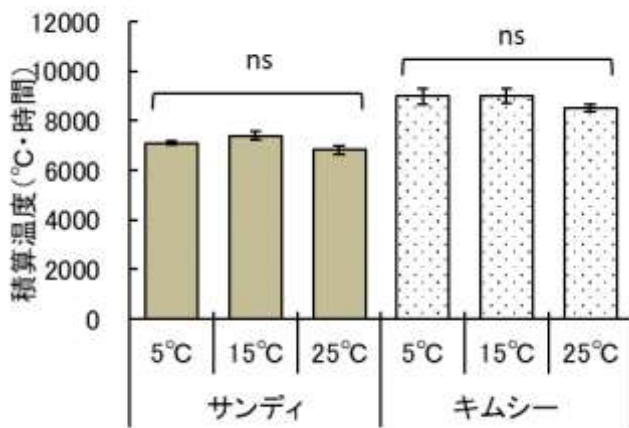


図3 ガーベラ‘キムシー’‘サンディ’への湿式での保管温度が収穫後からの積算温度に及ぼす影響^{1),2)}

試験開始:2018年10月15日、保管日数は4日間

- 1) nsは有意差なし
- 2) エラーバーは標準誤差を示す(n=10)

図4 ガーベラ‘キムシー’‘サンディ’への乾式での保管温度が収穫後からの積算温度に及ぼす影響^{1),2)}

試験開始:2020年10月12日、保管日数は2日間

- 1) nsは有意差なし
- 2) エラーバーは標準誤差を示す(n=10)

[その他]

研究課題名：施設花きの高度環境制御による周年生産および日持ち性向上技術の確立

予算区分：国委（2019-2021年度）

研究期間：2019-2021年度

研究担当者：鍋谷宏美、入谷明里、岩崎勇次郎、寺田吉徳、梅田さつき、武藤貴大